

府中市標準学力調査 考察資料

小学校

調査目的

●府中市内の小学校児童の学習状況を調査し、学習指導要領に定められた学習内容の定着状況を把握するとともに、今後の学力向上および指導の改善に資する。

調査内容

●調査目的に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成した。

調査対象

- 府中市内の小学校の1・2・3・4・5・6年生の児童
- 調査対象教科は、国語・算数・理科

◆用語について

正答率

各設問の正答率は、その設問に正答した児童・生徒の割合を示したものである。また、教科総合、領域別、観点別等の正答率は、対象設問中の正答率の平均を表す。

標準スコア

全国平均の正答率を50とした時の換算値。

目標値（目標標準評価方式のみ）

学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童・生徒の割合。

「知識・技能」が良好である

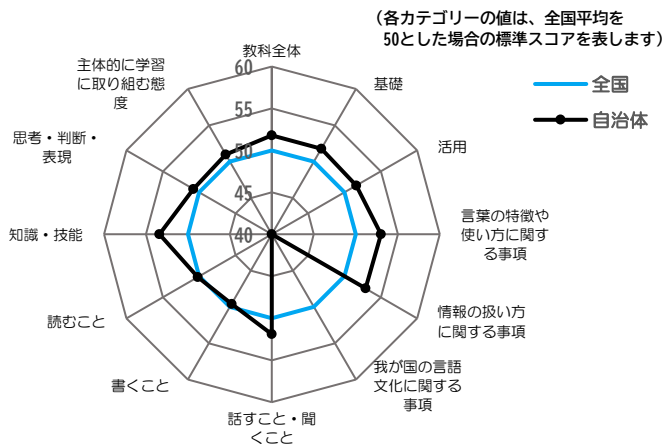
正答率一覧

(単位%) ◆=目標値		目標値	自治体	
教科全体		72.8	77.9	
基礎		78.0	81.1	
活用		63.1	71.9	
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	81.9	90.1	
	情報の扱い方に関する事項	65.0	76.6	
	我が国の言語文化に関する事項			
	話すこと・聞くこと	70.0	72.8	
	書くこと	70.0	75.4	
	読むこと	66.7	68.7	
	知識・技能	78.5	87.4	
観点別	思考・判断・表現	68.6	71.6	
	主体的に学習に取り組む態度	68.0	76.5	

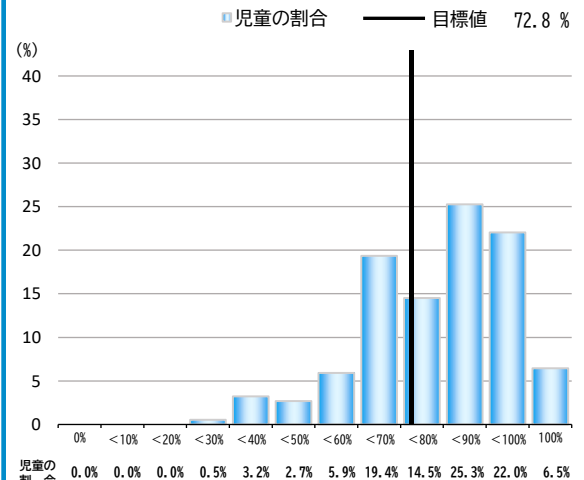
分析 コメント

- 小1国語は、教科全体の正答率が77.9%で、目標値を5.1ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも、「知識・技能」が87.4%で、目標値を8.9ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

せつめい文をよみとる

大問5(2)

<ねらい>

事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。

目標値 65.0% 正答率 34.9% 差 ▲ 30.1 ポイント

指導のポイント

説明的な文章では、始まりの部分丁寧に読み、事柄の順序を押さえながら内容を理解していくことが大切である。始まりの部分で、何についての説明なのか、どのように説明しようとしているのか、予想を立てることができるからである。特に、明確な問いの形で書いてあるものについては、それに対応した答えの部分を探させる指導を行ってきたい。

はなしをききとる

大問1(2)

<ねらい>

話し手が知らせたいことを落とさないように聞いている。

目標値 90.0% 正答率 81.7% 差 ▲ 8.3 ポイント

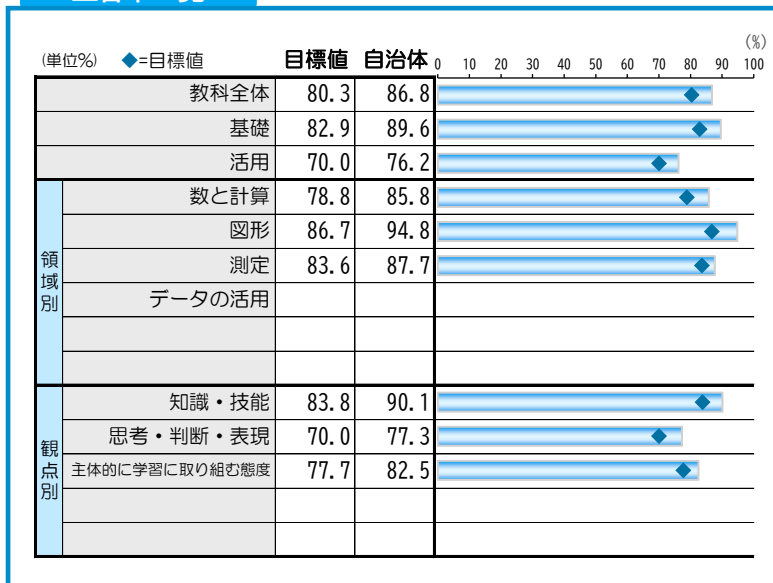
指導のポイント

聞く活動と話す活動は連動しており、自分の意見を上手にまとめて話すことができるようになると、他人が話している内容も的確に聞き取ることができるようになる。初めは、「なぜ?」「どうして?」「いつ?」「誰が?」「どうやって?」などというように、教師が話の内容を引き出ししていくことが必要である。今後も、学校生活におけるさまざまな場面を通して、話す力・聞く力を伸ばしていきたい。

小1 算数

「思考・判断・表現」が良好である

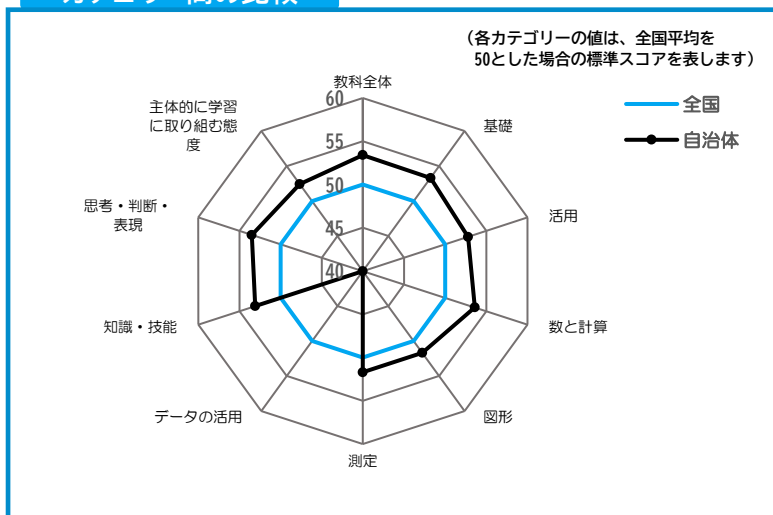
正答率一覧



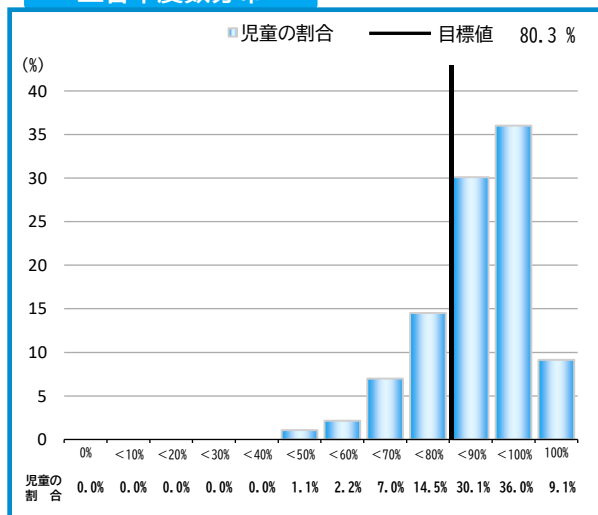
分析 コメント

- 小1算数は、教科全体の正答率が86.8%で、目標値を6.5ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも、「思考・判断・表現」が77.3%で、目標値を7.3ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

20までのかず

大問11

<ねらい> 順序数と集合数について理解している。

目標値 80.0% 正答率 73.7% 差 ▲ 6.3 ポイント

指導のポイント

「前から5わ」と「前から5番目」については、それぞれの言い方が何を指しているのかを押さえさせ、両者の意味の違いを十分に理解させる必要がある。同じような問題をたくさん解かせるのではなく、日常生活を通して理解できるように指導することが大切である。学校生活の中でも、「前から何人」「前から何番目」などの指示を意識的に用いて定着を図りたい。

たしざん

大問4

<ねらい> 10のまとまりをつくって、繰り上がりのある加法を考えている。

目標値 65.0% 正答率 60.2% 差 ▲ 4.8 ポイント

指導のポイント

計算技能に習熟させることも大切だが、10のまとまりを用いて計算の仕方をつくり出す活動も、これからの学習にとって非常に重要である。今後も、これまで学習してきた計算の仕方や、10のまとまりのよさを活用し、加法や減法の計算の仕方をつくり出せるように指導することが大切である。

「主体的に学習に取り組む態度」が良好である

正答率一覧

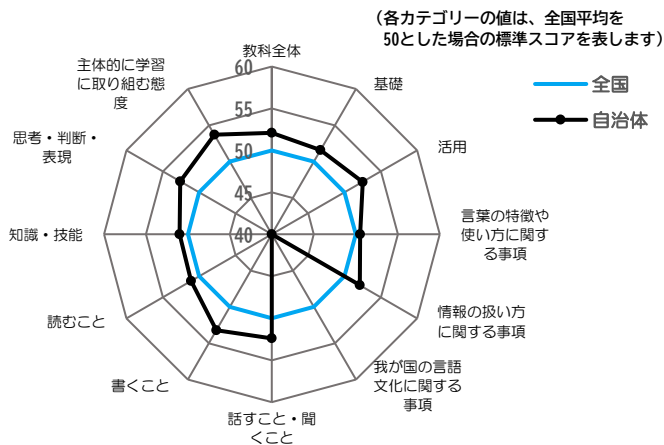
(単位%) ◆=目標値		目標値	自治体	
教科全体		74.2	80.4	
基礎		80.6	86.5	
活用		61.3	68.2	
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	86.1	92.5	
	情報の扱い方に関する事項	60.0	69.5	
	我が国の言語文化に関する事項			
	話すこと・聞くこと	60.0	64.4	
	書くこと	70.0	78.4	
	読むこと	69.2	74.4	
観点別	知識・技能	81.4	88.3	
	思考・判断・表現	66.1	71.7	
	主体的に学習に取り組む態度	62.0	71.9	

分析 コメント

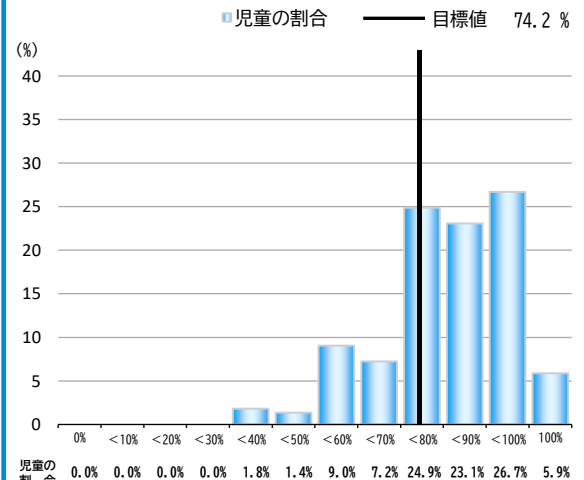
小2国語は、教科全体の正答率が80.4%で、目標値を6.2ポイント上回った。

観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも、「主体的に学習に取り組む態度」が71.9%で、目標値を9.9ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

ゲームのせつ明を聞く

大問6(1)

<ねらい> 話す事柄の順序などの話し手の工夫を捉えている。

目標値 50.0% 正答率 43.4% 差 ▲ 6.6 ポイント

指導のポイント

分かりやすい説明のためには、何をどのように話すのかという説明の内容と順序が大事であることを理解させたい。本問の【せつ明】では、「ひかるさん」がのりもの当てゲームの仕方について説明をしている。具体的には、最初にゲームの内容を説明して、次に進め方について説明している。その際に「まず」「つぎに」「それから」という順序を示す言葉を使うことで、聞き手に分かりやすく伝わるように工夫していることに気付かせる必要がある。それを踏まえて、それぞれの選択肢の内容を検討させるとよい。

文しょうを書く

大問7

<ねらい> 経験したことから書くことを見付け、文章を書いている。

目標値 75.0% 正答率 75.1% 差 0.1 ポイント

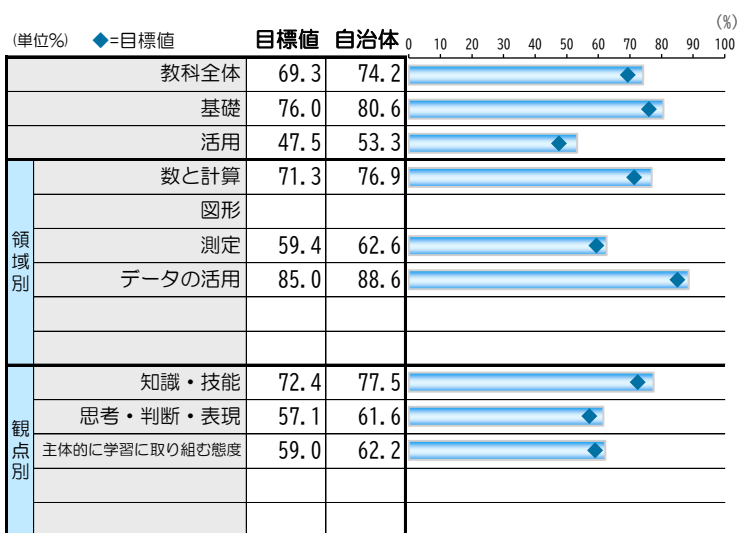
指導のポイント

これまでに国語の時間に読んだお話で、自分が一番好きなお話は何か、それは、誰がどのようなことをするお話なのか分かるように書く問題である。書く材料を集めるのが苦手な児童に対しては、記述に入る前の指導を工夫する必要がある。本問のような題材なら、これまでに国語の時間に読んだお話の内容などを簡単にノートに書き出させて、児童と会話をする中で、書くためのヒントに気付かせることが大切である。このように書く材料を集めさせた上で、「経験とその感想」という文章の書き方を身に付けさせたい。

小2 算数

「知識・技能」が良好である

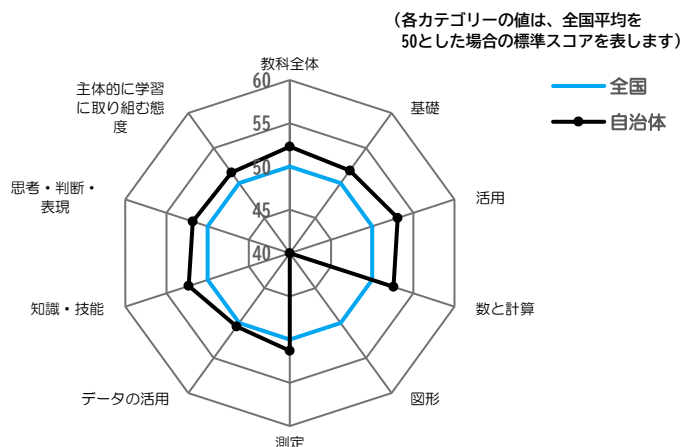
正答率一覧



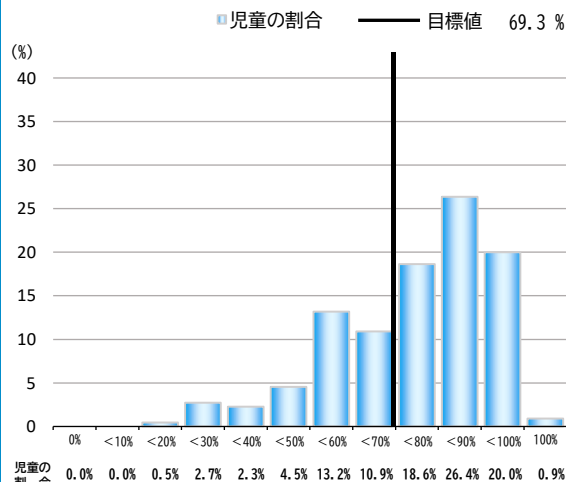
分析 コメント

- 小2算数は、教科全体の正答率が74.2%で、目標値を4.9ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも、「知識・技能」が77.5%で、目標値を5.1ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

1000までの数

大問3(2)

<ねらい>

不等号を使った数の大小の表し方を理解している。

目標値 80.0% 正答率 69.5% 差 ▲ 10.5 ポイント

指導のポイント

第2学年では、十進位取り記数法による数の表し方を学習する。0から9までの数字と位の位置によって、数の大きさを表す方法である。その際、数の並び方から数の大小や順序を判断できるようにすることが大切である。数の大小を調べるときに、例えば「243は261より小さい」と言葉で表す代わりに「>」「<」という記号を用いることで、数の大小関係を簡潔に表すことができるように気付かせたい。

たし算

大問8

<ねらい>

結合法則を用いた計算のしかたを説明している。

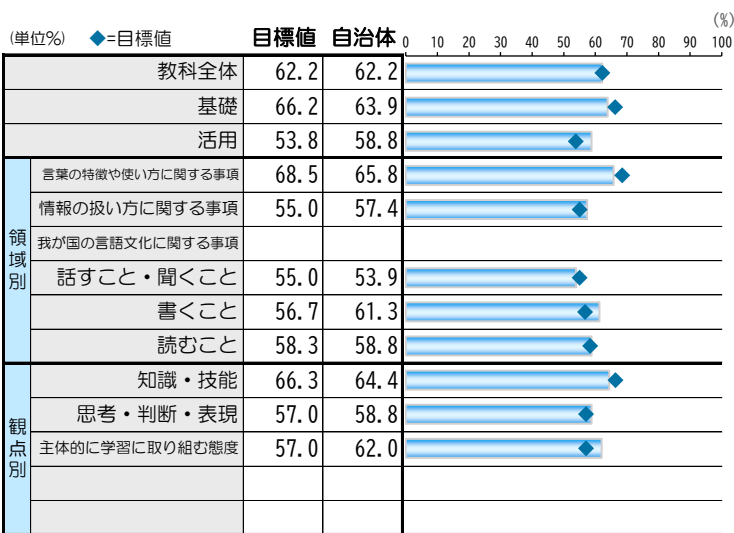
目標値 30.0% 正答率 22.7% 差 ▲ 7.3 ポイント

指導のポイント

第1学年から3口の計算を学習してきたので、結合法則の理解は十分だと考えられる。()については、()を用いた式は()内を先に計算するという計算のきまりにおいてだけでなく、考え方を表す記号としても有効に働くことを理解させたい。さらに、式は計算結果を求めるためだけのものではなく、考えを表したり、読み取ったりする場合にも有効に働くことを指導することが大切である。

「知識・技能」の定着に課題が残る

正答率一覧

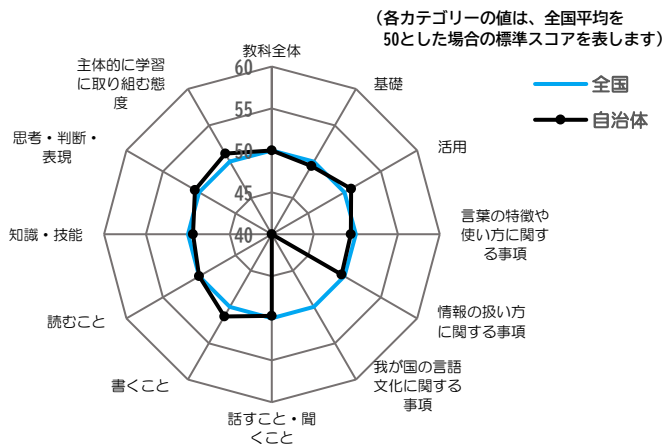


分析 コメント

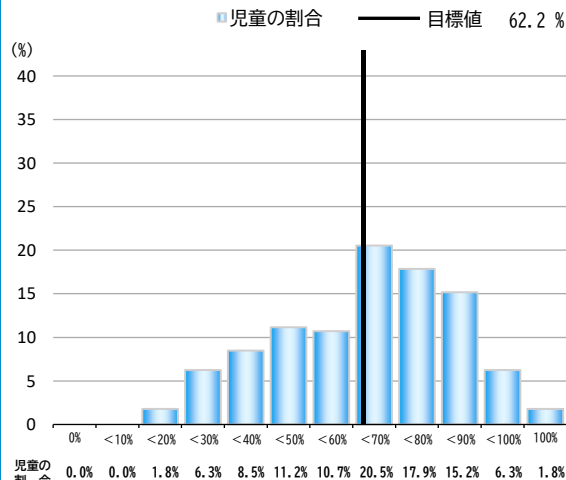
小3国語は、教科全体の正答率が62.2%で、目標値と同値だった。

観点別に正答率を見ると、「主体的に学習に取り組む態度」が62.0%で、目標値を5.0ポイント上回った。一方、「知識・技能」が64.4%で、目標値を1.9ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

言葉の学習

大問3(2)

<ねらい>

様子や行動を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。

目標値 40.0% 正答率 18.8% 差 ▲ 21.2 ポイント

指導のポイント

様子や行動を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにしていくことは、物語や小説などを読む際に、登場人物の言動を理解するのに役立つだけでなく、文章を書く際にも活用できるものとなる。授業の中でも、短文作り、辞書の活用、クイズとしての出題など、学習を工夫することが大事である。本問では、日常でもよく使われる言葉の使い方が出題されているので、解答しやすいであろう。正答を確認するだけでなく、誤答の選択肢についても、文の意味からはどのような言葉が適切なかを考えさせるとよい。

せつ明文の内ようを読み取る

大問5(2)

<ねらい>

叙述を基に段落の内容を捉えている。

目標値 60.0% 正答率 51.3% 差 ▲ 8.7 ポイント

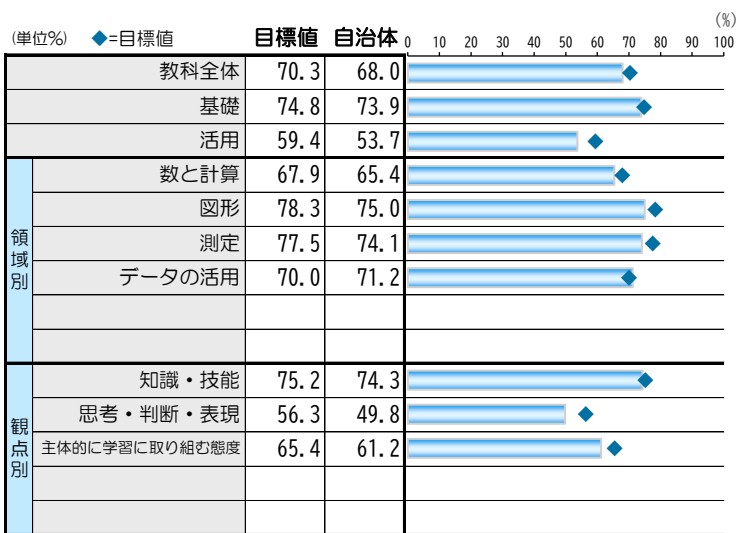
指導のポイント

設問に挙げられた「問い」と「答え」の関係になっている段落を捉え、適切な選択肢を選ぶ問題である。説明文を読む際には、それぞれの段落で何を述べているのか、中心は何か、といった段落ごとの要点を押さえる力が必要である。段落の中で中心になる文を見つけたり、それがいくつかの文にわたっているときは一文にまとめたりするなど、教科書の教材文を使って要点をまとめる活動を繰り返し行うことが大切である。

小3 算数

「思考・判断・表現」の定着に課題が残る

正答率一覧

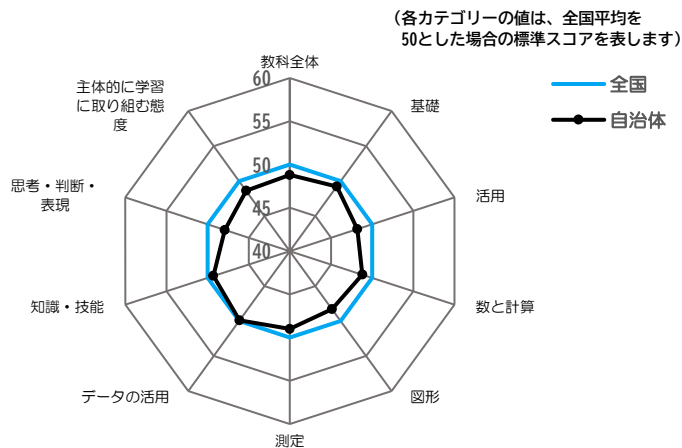


分析 コメント

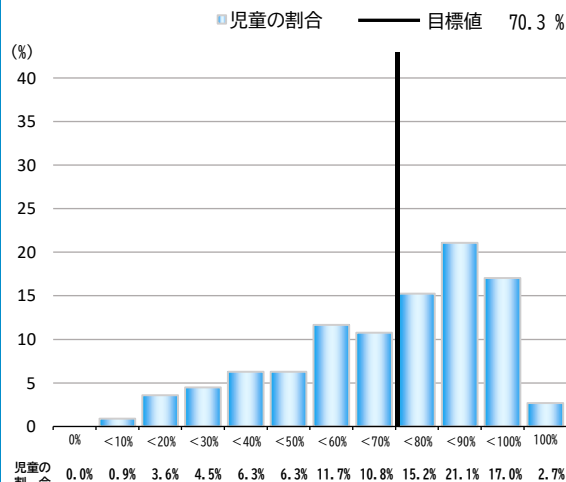
小3算数は、教科全体の正答率が68.0%で、目標値を2.3ポイント下回った。

観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に届かなかった。中でも、「思考・判断・表現」が49.8%で、目標値を6.5ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

わり算

大問17(2)

<ねらい>

文章問題を解くために立式した除法の式から、あまりの処理をして、正しい答えを求めている。

目標値 50.0% 正答率 34.1% 差 ▲ 15.9 ポイント

指導のポイント

文章問題では、問題場面から演算を判断し、立式し計算して答えを求めるという流れで解いていくが、機械的にその作業をするのではなく、計算して得られた数値を吟味することが大切である。本問の場合、 $23 \div 5 = 4$ 余り 3 となるが、4 は植木ばちの個数で3 はヒヤシンスの球根の個数である。余りのある除法では、商と余りの意味が違うことがあることを理解させたい。また、そこから再び問題場面に戻り、余ったヒヤシンスの球根はどうすればよいかを判断することになる。答えを求めるだけではなく、なぜその答えにしたのか、理由を説明させる活動を取り入れるとよい。

円と球

大問11

<ねらい>

円の半径とコンパスの使い方について理解している。

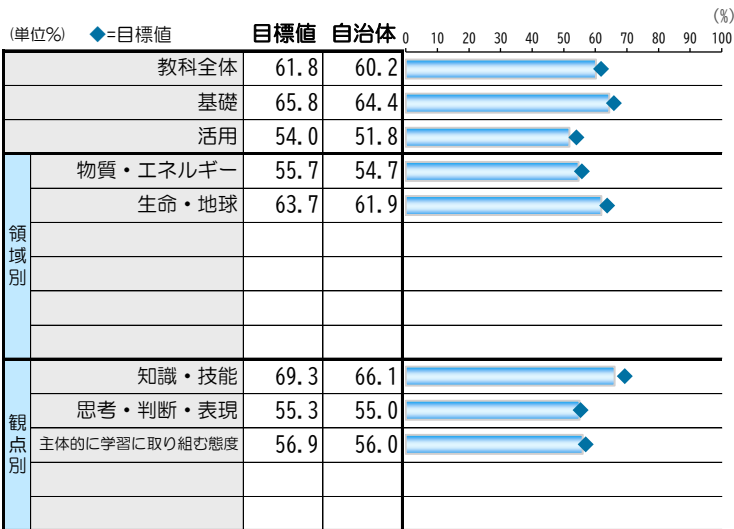
目標値 85.0% 正答率 76.2% 差 ▲ 8.8 ポイント

指導のポイント

コンパスの操作方法を確実に習得させるためには、円を使った模様作りが効果的である。その際、どこにコンパスの針を刺せば、どのような円がかかるのかを考えさせながら取り組ませるとよい。また、できあがっている模様から、円の中心はどこかを考えさせることも大切である。

「知識・技能」の定着に課題が残る

正答率一覧

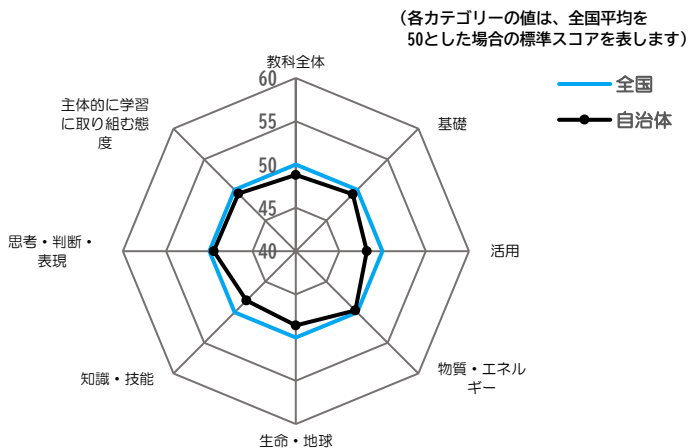


分析 コメント

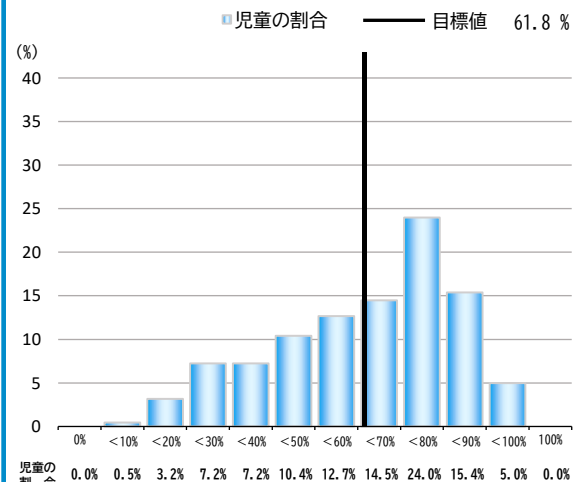
小3理科は、教科全体の正答率が60.2%で、目標値を1.6ポイント下回った。

観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に届かなかった。中でも、「知識・技能」が66.1%で、目標値を3.2ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

風やゴムのはたらき

大問5(3)

<ねらい>

実験結果から、ゴムのはたらきの特徴を分析できる。

目標値 75.0% 正答率 54.8% 差 ▲ 20.2 ポイント

指導のポイント

ゴムを伸ばしたりねじったりすると、元に戻ろうとする力が働く。その力は、ゴムを伸ばす長さが長いほど大きくなることを、きちんと理解させる必要がある。さらに、ゴムを伸ばす長さを変えるだけでなく、その太さや本数を変えることによって、元に戻ろうとする力がどのように変わるのか、実際に児童に実験させることで理解を深めさせたい。

太陽と地面のようす

大問8(1)

<ねらい>

太陽と影の関係をもとに、正しい影のようすを指摘できる。

目標値 75.0% 正答率 57.5% 差 ▲ 17.5 ポイント

指導のポイント

影のできる方向は、太陽の反対側であることをきちんと捉えられるように指導する必要がある。実際の観察を通して、影のできる方向について正しく理解させたい。方位磁針を使って、影のできる方向から太陽の位置を考えさせ、太陽の1日の動きと関連させながら、影の動きについて理解を深めさせるとよい。

「主体的に学習に取り組む態度」が良好である

正答率一覧

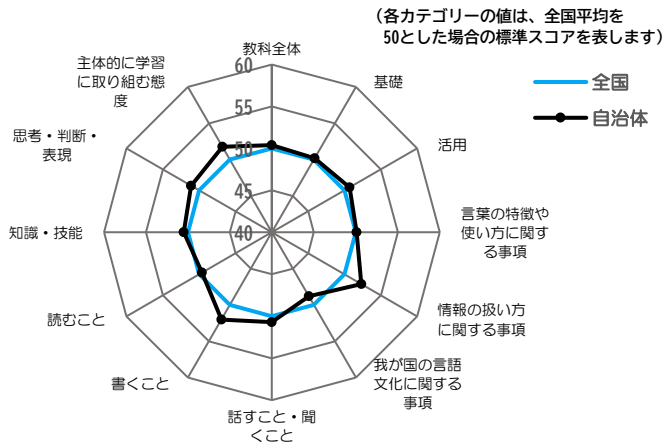
(単位%)	◆=目標値	目標値	自治体	(%)
教科全体	66.7	70.8		
基礎	69.4	73.2		
活用	61.7	66.2		
領域別				
言葉の特徴や使い方に関する事項	69.5	72.3		
情報の扱い方に関する事項	50.0	53.8		
我が国の言語文化に関する事項	80.0	83.4		
話すこと・聞くこと	62.0	67.9		
書くこと	67.5	75.9		
読むこと	62.5	63.7		
観点別				
知識・技能	67.3	70.3		
思考・判断・表現	63.7	68.3		
主体的に学習に取り組む態度	63.0	70.6		

分析 コメント

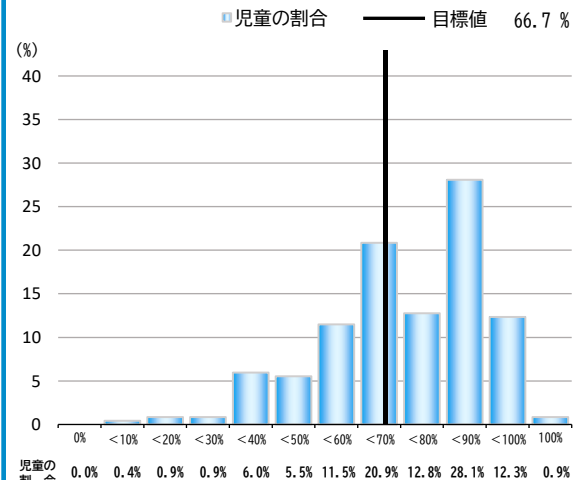
小4 国語は、教科全体の正答率が70.8%で、目標値を4.1ポイント上回った。

観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも、「主体的に学習に取り組む態度」が70.6%で、目標値を7.6ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

漢字を書く

大問2(2)①

<ねらい>

第3学年に配当されている漢字を正しく書いている。

目標値 65.0% 正答率 45.5% 差 ▲ 19.5 ポイント

指導のポイント

日常よく目にする漢字であっても、いざ書くとなると書けないことが多い。国語科の漢字の指導において、日頃から小テストなどを通して習熟を図るとともに、他教科の書く活動などの中でも、既習漢字を使うように指導することが大切である。

説明文の内ようを読み取る

大問5(3)

<ねらい>

中心となる語や文を見付けて要約している。

目標値 40.0% 正答率 23.0% 差 ▲ 17.0 ポイント

指導のポイント

本問では、まず文章の構成を理解しながら読む。次に、「まとめ」にある「足のふらつき」と「やわらかい感じ」の原因を押さえればよい。そうすると、「足のふらつき」については、第3段落に述べられている。また、「やわらかい感じ」については、第4段落の「『今歩いている地面はやわらかい』と誤解する」とことであると考えられる。しかし、10字以内という条件や、「足がふらついているのに」という言葉に続けることから、第6段落の「自分は元気だ」という言葉が該当することが分かる。読むことの問題で大事なことは、文章全体を対象として取り組むということである。

小4 算数

「思考・判断・表現」が良好である

正答率一覧

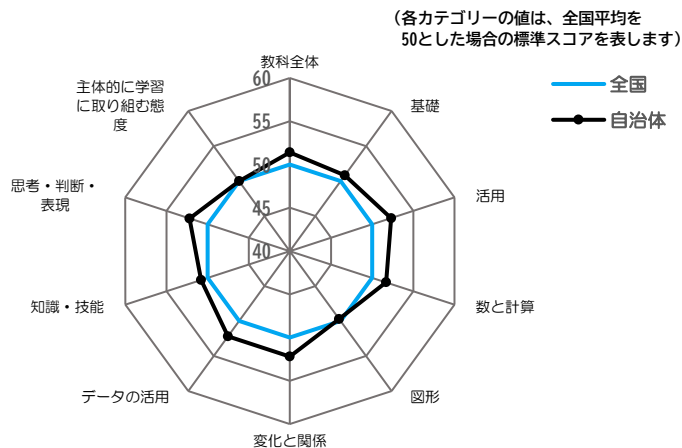
(単位%) ◆=目標値		目標値	自治体	
教科全体		66.5	71.0	
基礎		70.0	72.7	
活用		57.8	66.9	
領域別	数と計算	69.8	74.3	
	図形	58.1	60.5	
	変化と関係	68.3	78.6	
	データの活用	65.0	77.9	
観点別	知識・技能	71.2	73.7	
	思考・判断・表現	56.5	65.4	
	主体的に学習に取り組む態度	51.0	53.7	

分析 コメント

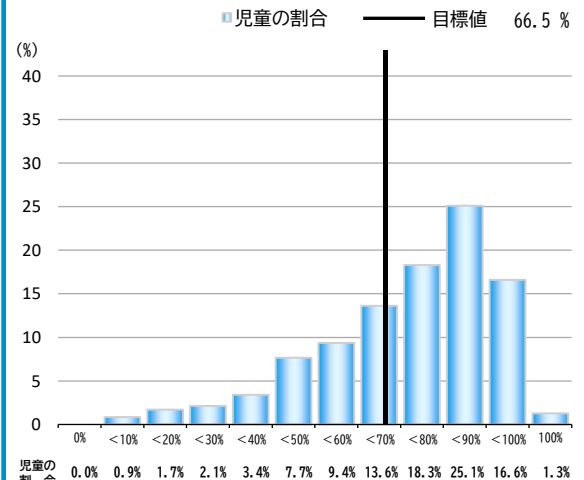
小4算数は、教科全体の正答率が71.0%で、目標値を4.5ポイント上回った。

観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも、「思考・判断・表現」が65.4%で、目標値を8.9ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

計算のきまり

大問5(1)

<ねらい>

計算のきまりを使って、四則混合（加法・除法）の式の計算ができる。

目標値 75.0% 正答率 55.3% 差 ▲ 19.7 ポイント

指導のポイント

四則混合計算ができるかどうかを見る問題であるが、乗除→加減の順番で計算すべきことをきちんと理解できていないことがうかがえる。この計算の順序は、今後計算をしていく上で、基本となるきまりである。小学校のうちに、（ ）のある式は（ ）の中を先に計算する、乗除を加減より先に計算する、などといったきまりを十分に定着させる必要がある。

垂直・平行と四角形

大問16(3)

<ねらい>

平行四辺形の性質をもとに、できた四角形が平行四辺形であることを説明している。

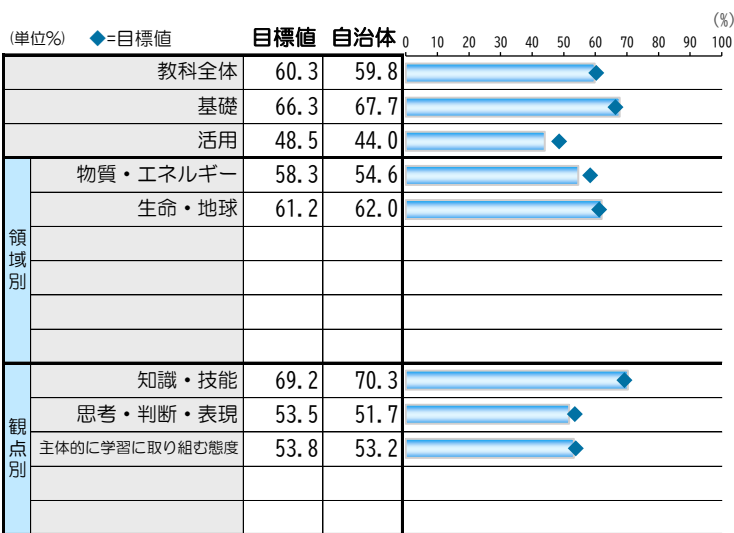
目標値 30.0% 正答率 12.8% 差 ▲ 17.2 ポイント

指導のポイント

本問のテープの幅はどれも同じ長さになっているので、テープの上の直線と下の直線は平行の関係になっている。このように、学習したことを身の回りにあるものから見いだす活動を取り入れていきたい。その際、見つけた図形がどのような四角形なのかを説明できるようにすることが大切である。また、幅の違うテープを組み合わせることで、2組の辺が平行である四角形（平行四辺形）ができることの面白さに気付けるように指導していきたい。

「思考・判断・表現」の定着に課題が残る

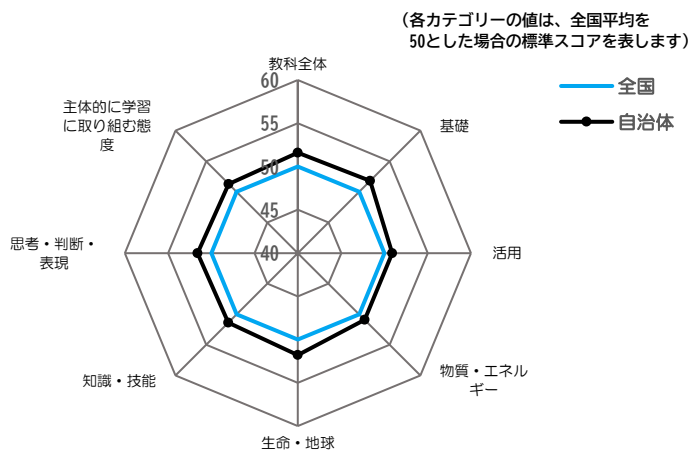
正答率一覧



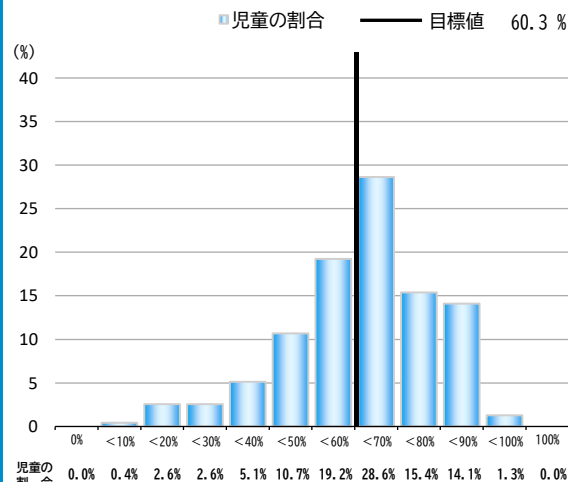
分析 コメント

- 小4 理科は、教科全体の正答率が59.8%で、目標値を0.5ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、「知識・技能」が70.3%で、目標値を1.1ポイント上回った。一方、「思考・判断・表現」が51.7%で、目標値を1.8ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

月と星

大問6(1)

<ねらい> はくちょう座の一等星の名称を理解している。

目標値 30.0% 正答率 10.3% 差 ▲ 19.7 ポイント

指導のポイント

学校の授業で実際に星座を観察させることは時間的に難しいので、プラネタリウムや、移動教室などでの夜間学習、P C教材などを活用し、天体に対する興味・関心を育てることが大切である。また、教師が星座のエピソードを語ったり、児童に星座に関連する物語を調べさせたりするなどの指導の工夫も必要である。夏休みなどに実際に観察させる場合に、夏の大三角を形作る星座など、天頂付近の星座についてうまく記録できない児童については、目印になる木や建物などの近くで、星座と目印が視野の中に入るようにして観察させるとよい。

電気のはたらき

大問10(3)

<ねらい> 実験の結果をもとに、乾電池の数とつながり方の関係について推測し、説明できる。

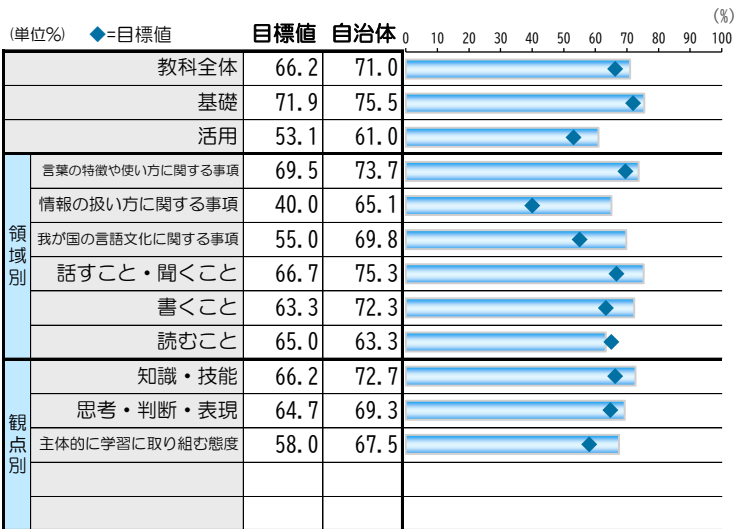
目標値 30.0% 正答率 12.0% 差 ▲ 18.0 ポイント

指導のポイント

直列つながりで乾電池の数を増やすと、豆電球がより明るくついたり、モーターがより速く回ったりすることについて理解できている児童は多い。しかし、そのことを文章で適切に表現できない場合もある。自分が理解できていることを上手く表現できるようにさせるためには、授業中に自分の考えを自分の言葉で書く場面を多く設けることが大切である。実験の考察や結論を、教師がまとめて黒板に書き、それをノートに写させるような授業ではなく、児童の言葉でまとめた文章を作らせることを心がけるとよい。

「主体的に学習に取り組む態度」が良好である

正答率一覧

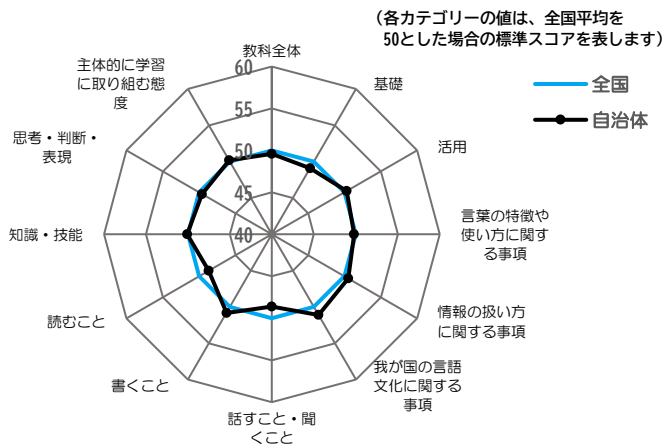


分析 コメント

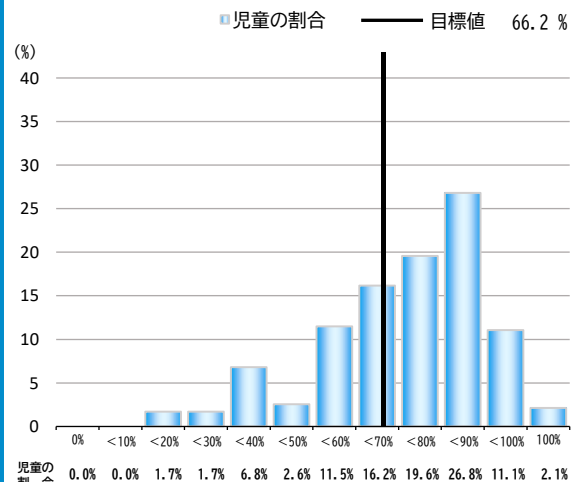
小5国語は、教科全体の正答率が71.0%で、目標値を4.8ポイント上回った。

観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも、「主体的に学習に取り組む態度」が67.5%で、目標値を9.5ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

物語の内容を読み取る

大問4(1)

<ねらい> 登場人物の心情について、描写を基に捉えている。

目標値 80.0% 正答率 70.2% 差 ▲ 9.8 ポイント

指導のポイント

文学的な文章の読み取りの問題では、児童はどうしても設問箇所だけに注目してしまい、場面の様子や登場人物の人間関係など、文章全体の流れをしっかりと理解しないまま解こうとする傾向がある。まずは、文章全体としてどのような話なのかを理解させ、その上で細部について考えるような読み方を身に付けさせる必要がある。授業においては、文章の全体と細部の関係を意識して指導することが大切である。

漢字を書く

大問2(2)③

<ねらい> 第4学年に配当されている漢字を正しく書いている。

目標値 70.0% 正答率 64.3% 差 ▲ 5.7 ポイント

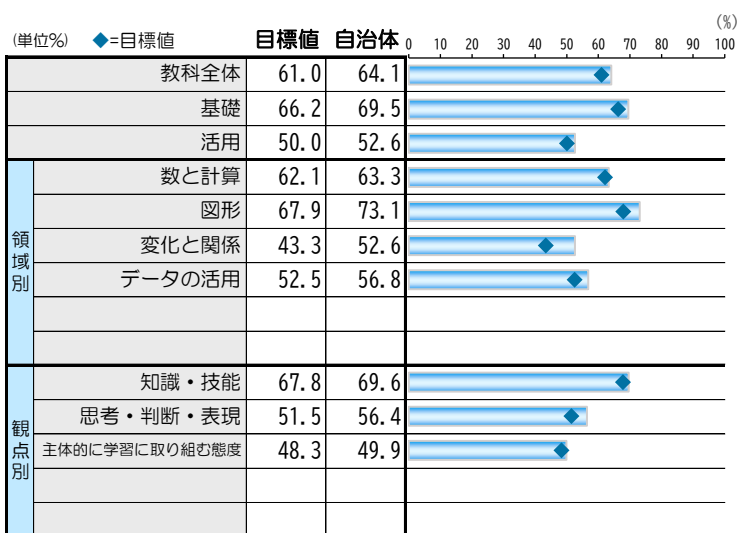
指導のポイント

漢字については、文脈に沿って読む力だけでなく、正しく書く力も育てる必要がある。文を書く際には、漢字自体の意味を考えながら、正しく使えるように指導することが大切である。また、他教科における書く活動や宿題の中で繰り返し書かせることにより、漢字を書くことに対する抵抗感を軽減させることも重要である。

小5 算数

「思考・判断・表現」が良好である

正答率一覧

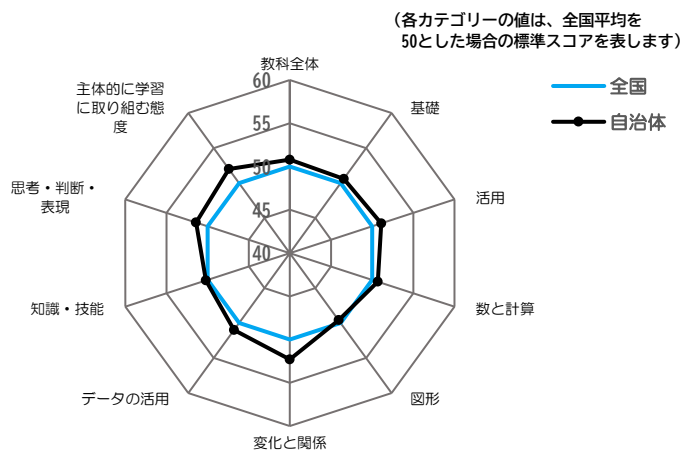


分析 コメント

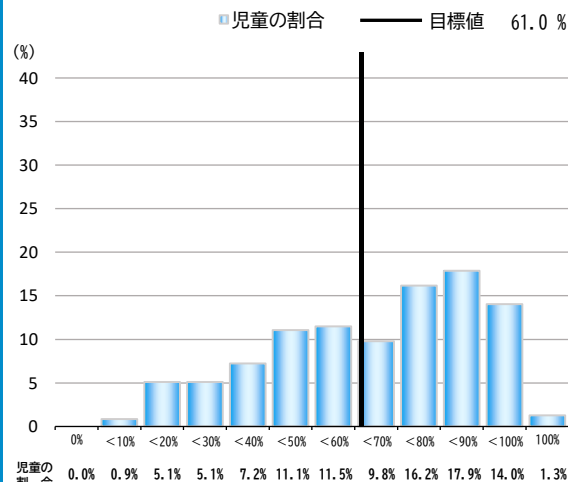
小5算数は、教科全体の正答率が64.1%で、目標値を3.1ポイント上回った。

観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも、「思考・判断・表現」が56.4%で、目標値を4.9ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

小数のかけ算・わり算

大問15(3)

<ねらい>

厚さ5.4cmの辞書を、幅90cmの本棚に何冊並べることができるかを説明している。

目標値 30.0% 正答率 10.6% 差 ▲ 19.4 ポイント

指導のポイント

計算で結果を得たときに、それぞれの数 que を表すのかを理解できるようにさせる必要がある。本問の問題場面を表す式は、 $90 \div 5.4 = 16 \text{ 余り } 3.6$ となる。この場合、本だなの2段目には辞書を16冊並べることができ、本だなの幅は3.6cm余ることになるが、商と余りの単位が違うことに気付かせることよい。余りのある除法の場合は、商と余りの単位を考えさせることが大切である。その上で、問題場面に戻り、余りの処理の仕方を判断できるように指導したい。

体積

大問8(2)

<ねらい>

直方体を組み合わせた形の体積を求めることができる。

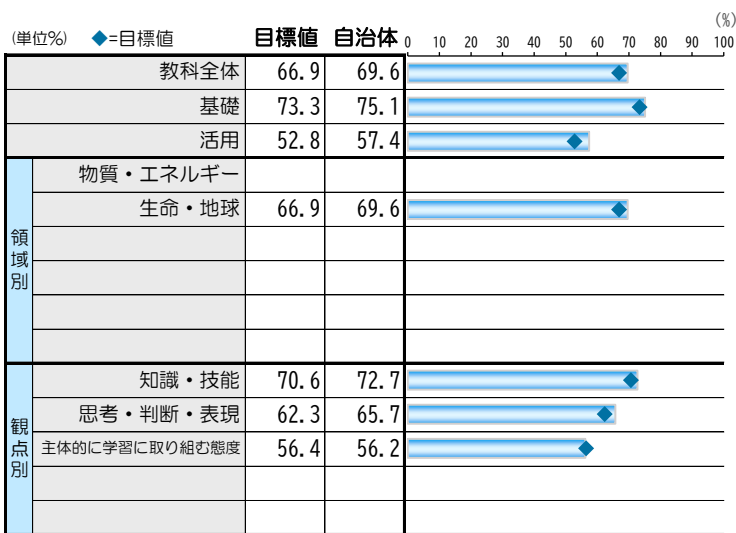
目標値 70.0% 正答率 66.8% 差 ▲ 3.2 ポイント

指導のポイント

複合立体図形の体積は、図形をいくつかの直方体や立方体に分けたり切り取ったりして求めることができることを理解させたい。実物大の立体を提示して考えさせるなどして、さまざまな方法で体積を求めるアイデアを身に付けさせることが必要である。なぜそのような式で求めることができるのか、児童に分かりやすく説明させる活動を取り入れることも大切である。

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

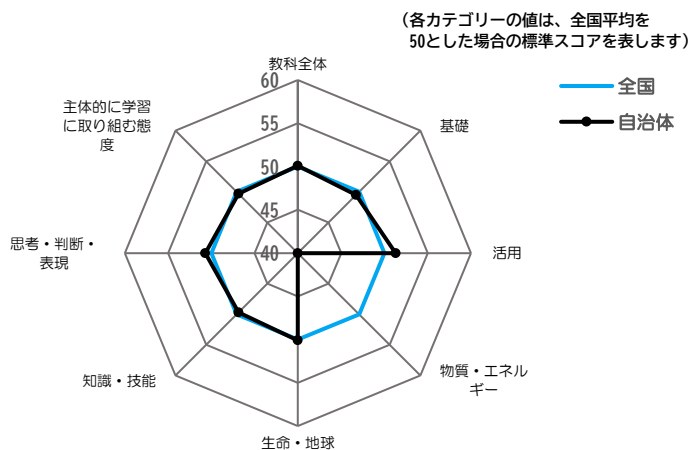
正答率一覧



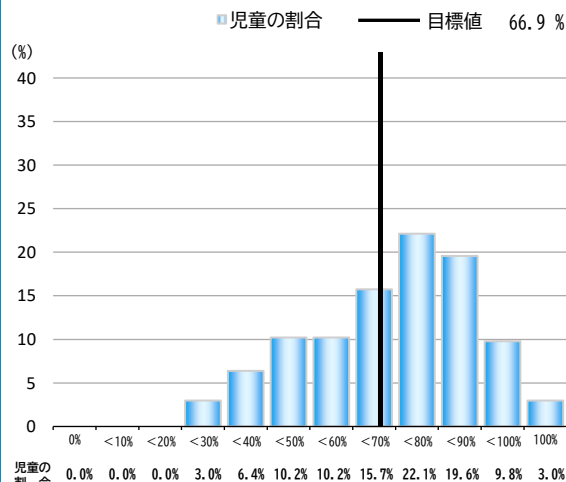
分析 コメント

- 小5理科は、教科全体の正答率が69.6%で、目標値を2.7ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、「思考・判断・表現」が65.7%で、目標値を3.4ポイント上回った。一方、「主体的に学習に取り組む態度」が56.2%で、目標値を0.2ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

植物の発芽と成長

大問3 (2)

<ねらい>

インゲンマメの種子と発芽後の子葉のヨウ素デンプン反応を理解している。

目標値 85.0% 正答率 77.4% 差 ▲ 7.6 ポイント

指導のポイント

ヨウ素液は、でんぷんを青紫色に変える性質があるので、種子などをヨウ素液に浸すことにより、でんぷんが含まれているかどうかを調べることができる。発芽する前の種子にはでんぷんが含まれているため、ヨウ素液に浸すと青紫色に変化するが、発芽した後の子葉の部分は、でんぷんが、発芽するときの養分として使われて少なくなっているため、ヨウ素液に浸しても色があまり変化しないことを理解させる必要がある。ヨウ素ででんぷん反応は、基本的な知識なので、きちんと定着させたい。

けんび鏡の使い方

大問8(1)

<ねらい>

顕微鏡の正しい操作手順を身に付けている。

目標値 70.0% 正答率 62.6% 差 ▲ 7.4 ポイント

指導のポイント

顕微鏡を使って観察するとき、対物レンズは低倍率のものから使い始め、順に倍率を上げていくことを押さえさせる。顕微鏡を使い慣れていない場合には、使い方のポイントを段階的に確認しながら指導することが大切である。また、対象物以外の物を見て、見えていると思っている場合もある。顕微鏡カメラなどで実際の見え方を提示して、観察対象を確認させるとよい。

「知識・技能」の定着に課題が残る

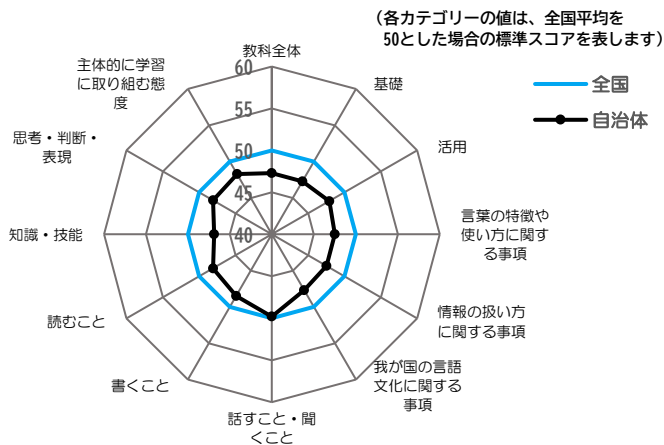
正答率一覧

(単位%) ◆=目標値		目標値	自治体	(%)
教科全体		64.8	65.0	
基礎		68.5	66.0	
活用		57.8	63.1	
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	65.5	60.2	
	情報の扱い方に関する事項	55.0	53.1	
	我が国の言語文化に関する事項	50.0	35.5	
	話すこと・聞くこと	70.0	87.5	
	書くこと	61.7	64.0	
	読むこと	66.7	69.0	
	知識・技能	62.7	57.2	
観点別	思考・判断・表現	65.3	70.7	
	主体的に学習に取り組む態度	58.0	63.4	

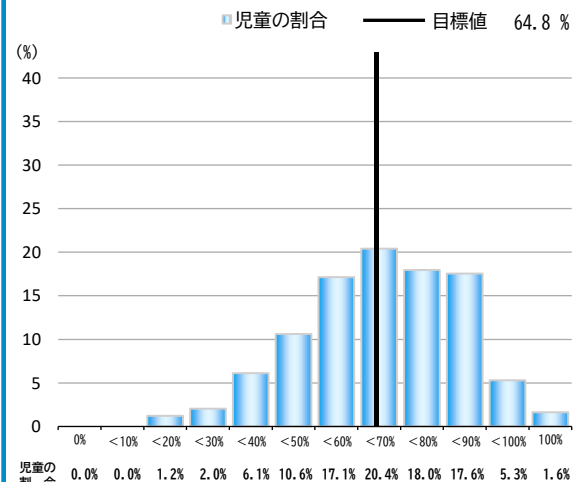
分析 コメント

- 小6国語は、教科全体の正答率が65.0%で、目標値を0.2ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、「思考・判断・表現」が70.7%で、目標値を5.4ポイント上回った。一方、「知識・技能」が57.2%で、目標値を5.5ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

漢字を書く

大問2(2)①

<ねらい> 第5学年に配当されている漢字を正しく書いている。

目標値 40.0% 正答率 20.0% 差 ▲ 20.0 ポイント

指導のポイント

学校では、漢字練習や小テストを繰り返しているが、漢字が定着するまでの学習時間には個人差がある。練習の方法としては、同じ漢字を1ページ書くよりも、書き順や送り仮名を覚えるために1行、熟語として2行、残りは文の中で漢字を使うなどの練習をする方が望ましい。本問のように、短文を書く中で漢字を書けるようにする練習は、家庭学習として定着させたい。学校では、さまざまな教科の文章を書く活動で、分からない漢字はすぐに辞書で調べさせるなど、漢字を使って文章を書く習慣を身に付けさせることが大切である。

説明文の内容を読み取る

大問5(1)

<ねらい> 叙述を基に文章の内容を捉えている。

目標値 60.0% 正答率 47.3% 差 ▲ 12.7 ポイント

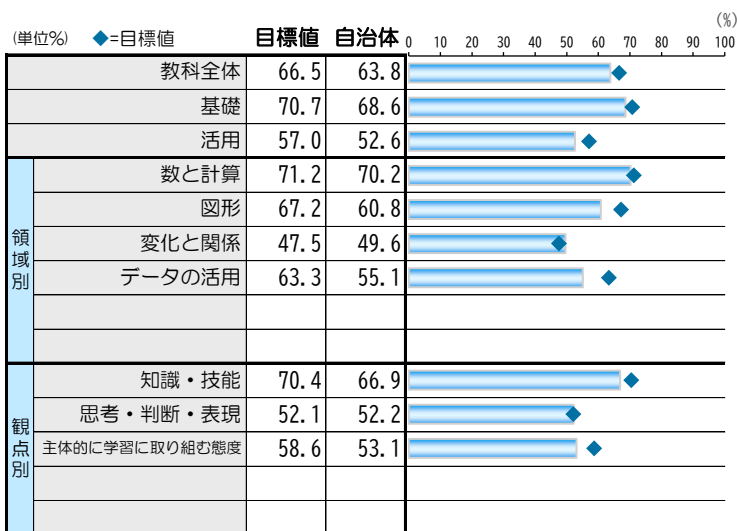
指導のポイント

説明的な文章の読み方の基本になるのが、要旨を捉えたり要点を理解したりすることである。そのためには、事実と感想や意見などとの関係を押さえて読むことが必要になってくる。第6学年になるまでに、各学年で説明的な文章の読み方を学習してきたが、そうした読み方を再度確認してみることも大事である。本問の文章は、「アオガエルの仲間が木の上で生活していること」について述べたものである。筆者がどのように説明を展開しているのかということを押さえながら、読んでいくようにしたい。

小6算数

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

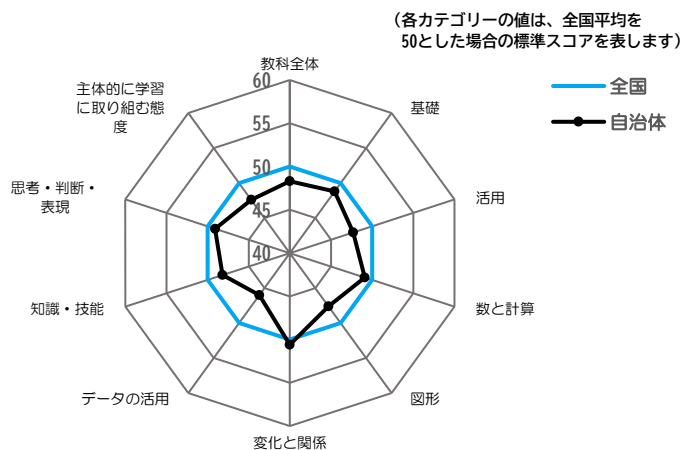
正答率一覧



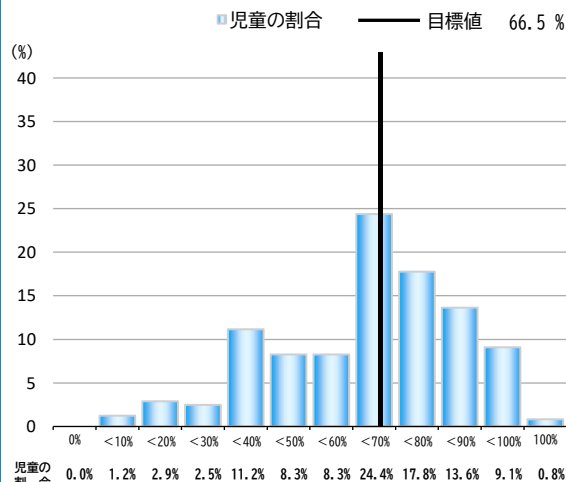
分析コメント

- 小6算数は、教科全体の正答率が63.8%
- で、目標値を2.7ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、「思考・判断・表現」が52.2%で、目標値を0.1ポイント上回った。一方、「主体的に学習に取り組む態度」が53.1%で、目標値を5.5ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

データの活用

大問13(1)

<ねらい>

ドットプロットから、最頻値を読み取ることができる。

目標値 80.0% 正答率 62.8% 差 ▲ 17.2 ポイント

指導のポイント

本問では、まず、中央値や最頻値といった代表値の意味と必要性を捉えさせる指導が必要である。中央値に関しては、全てのデータを値の大きさの順に並べた際の中央の値であること、データの個数が奇数個と偶数個の場合で求め方が異なることなどを、しっかりと理解させたい。最頻値に関しては、データの中で最も多く現れた値であることを確認させ、数直線の数値を読み間違えないように注意させるとよい。これらと併せて、ドットプロットへの表し方や、ドットプロットからのデータの読み取りの習熟を図ることも重要である。

対称な形

大問10(1)

<ねらい>

線対称な図形の対応する点について理解している。

目標値 50.0% 正答率 34.7% 差 ▲ 15.3 ポイント

指導のポイント

点Eと答えた誤答が多く見られ、線対称と点対称を混同している様子がうかがえる。線対称な図形の性質について確認させるとともに、正八角形に実際に対称の軸をかきこませ、その軸を折り目として折ったとき、ぴったり重なるかどうか、あるいは、対応する2つの点を結ぶ直線が、対称の軸と垂直に交わるかどうかを確認させるとよい。

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

正答率一覧

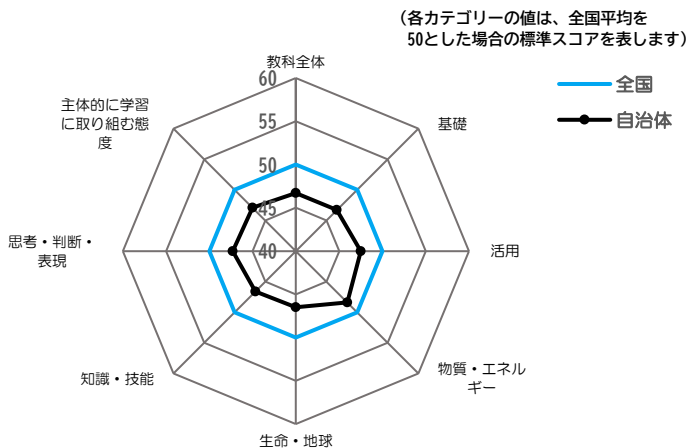
(単位%) ◆=目標値		目標値	自治体	
教科全体		62.5	57.4	
基礎		64.8	59.4	
活用		56.3	52.1	
領域別	物質・エネルギー	57.0	56.0	
	生命・地球	63.6	57.7	
観点別	知識・技能	66.8	61.1	
	思考・判断・表現	56.9	52.7	
	主体的に学習に取り組む態度	58.0	49.3	

分析 コメント

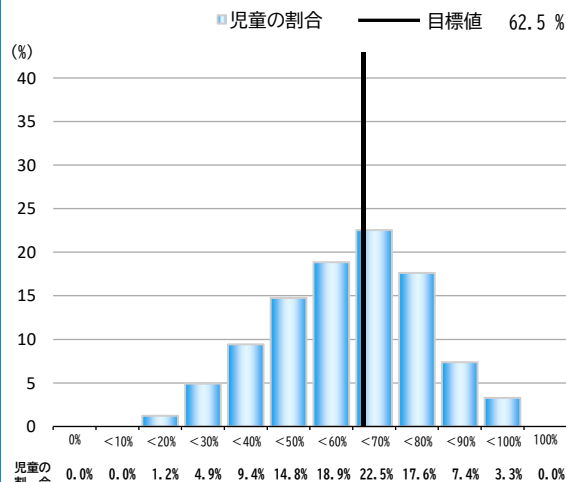
小6 理科は、教科全体の正答率が57.4%で、目標値を5.1ポイント下回った。

観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に届かなかった。中でも、「主体的に学習に取り組む態度」が49.3%で、目標値を8.7ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

動物のからだのつくりとはたらき

大問3(2)

物の燃え方

大問1(1)

<ねらい> ぼうこうについて理解している。

目標値 60.0% 正答率 38.5% 差 ▲ 21.5 ポイント

指導のポイント 人間の体には、消化器、呼吸器、循環器などの器官があり、腎臓は排泄器である。人体の模型などを使って、各器官の位置や形を調べさせるとともに、それぞれの器官の働きを一覧にしてまとめさせるとよい。体の各部分でいらなくなった物や余分な水分が、血液によって腎臓に運ばれること、腎臓で血液の中から取り除かれた、いらなくなった物や余分な水分は、ぼうこうに一時的にためられた後、尿として体の外へ出されることを理解させることが大切である。

<ねらい> 気体を捕集する方法を理解している。

目標値 55.0% 正答率 35.2% 差 ▲ 19.8 ポイント

指導のポイント 気体の集め方として、水上置換法の正しい実験方法を問う問題である。問題には実験のイラストと説明文があるので、両者を丁寧に読み取っていけばよい。誤答が多い原因としては、実験をしていないことが考えられる。演示でしか実験ができない場合も、「なぜ最初は水をいっぱいに入れているのかな」「水を入れずに、空気中でボンベから気体を入れてもいいよね」のような発問をして、児童に考えさせる場面を作る必要がある。目に見えないが、空気中では集気びんの中に空気があり、それを追い出してから、ボンベの気体を入れることを納得させたい。